

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念はわかりやすく壁に明示してある。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		ミーティングや先に行った自己評価、外部評価の結果をスタッフに読んでもらい日々の仕事に反映させる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居者家族には入居の際によく説明し、理解していただく。理念の明示が一番気が付きやすい部に見やすくしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		町内会にも入っているの、回覧板が回ってきた時は入居者と一緒に次の家に回したり、運営推進会議の場など利用し当ホームをPRしたりしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		買い物、散歩、町内の子供会祭りへの参加、祭礼見物など積極的に行っている。 自治会への参加をするようになり、あんじんの理解を深めて頂く場ともなった。

【千葉県】グループホーム あんじん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いに出たことはあるが、実施までは至っていない。		認知症サポーター養成のキャラバンメイトの研修を受けた。認知症に対する理解を深めて頂けるよう協力したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で話し合い、外部評価、自己評価はスタッフ全員が読むようにし、改善点があれば取り組むようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当ホームの現況、職員の勤務状況、研修等々を報告し、話し合いをしている。地域の方にも参加してもらい防火訓練などを行った。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のグループホームと市との懇親会を設け、サービス向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見制度について熟知するよう努めている。現在利用者の中に一人この制度を利用している方がいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底の為、職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者家族には十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解納得をしてもらう。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議等で家族、利用者から意見を伺い、運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年2回家族会を実施し、事業者を家族との個別面談を行い、日頃の生活状況などを報告する。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議等の機会に意見や要望を出してもらい、適切な対応に努め運営に反映させる。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングの際、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応ができるよう職員間の調整や話し合いを行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、入居者と馴染みの関係を築けるよう配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修し、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、勉強会(ミーティング)を月1回実施し職員の質の向上に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等で同業者と交流する機会を持ち、勉強会や他施設などの見学会等を実施し、質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減に向け、工夫や環境作りに取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各人が向上心を持って働けるようミーティングなどの場で意見交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの苦情は、職員全員で把握し、解決に向け努力する。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との信頼関係が築けるよう、よく聴く機会を設け、受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、職員や場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫し安心して生活が送れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながら入居者の能力や希望に応じ、喜怒哀楽を共にし、家事等の生活活動に協力してもらっている。入居者の豊富な人生経験から学ぶことも多く、支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からも本人の様子を伺ったり、共に喜怒哀楽を分かち合い、より良い関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会等を通じて、より良い関係を築いていけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のニーズに応じ、外出、散歩、買い物に出かける等の工夫をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わり合い支え合えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>本人、家族の希望により、自宅へ戻った方があったが、入居者、スタッフが会いに行ったり訪問介護をしターミナルを迎えた。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族に以前の暮らしの情報を伺い、現在の暮らし方を考慮しながら、本人、家族の意向にそえるよう支援を行っています。また、職員の気づきや本人の言葉・表情の中から本人本位の視点で思い意向を把握</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式のアセスメントを利用し、チームからの情報を集めて(生活歴、馴染みの暮らし)把握する。家族に伺ったり、本人の生活ぶより職員間で予感しながら把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の日誌の記録を中心に、個々の状態を引き継ぎながらミーティングにて職員の共通理解を図っている。センター方式を活用し、心身状態有する力の現状をより把握するようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを利用しチームからの情報を集め、生活の中で本人の言葉をひろいだしています。1人1人の課題やケアのあり方をミーティングで話し合い、アイデアと工夫を中心に利用者本位の介護計画となるよう作成しています。</p>		
	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3～6ヶ月に1回評価をし、計画の見直しを行っています。骨折の為に入院された方があり、退院してからの状況に合わせて病院からの情報をもとに本人、家族、職員間で話し合いをし、新たな計画を作成しました。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に個別記録を記入し、当日の介護者が特に必要なことを申し送っている。日誌は全員が目を通し確認をし、情報を共有しています。又、様子、声を拾い、ミーティングでの気づき、工夫をセンター方式を活用して介護計画の見直しに活かす。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同事業所の別のグループホームやデイサービス、小規模多機能との交流を図っている。系列医院が隣接し、他の病院との情報交換等の連携が取れる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にて民生委員に理解と協力依頼をしている。緊急時の対応として警察、消防署に即時に協力依頼できるようにしている。希望者が文化に触れられるよう支援、又、近隣の保育所に招待されることもある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の希望により要望があれば利用できるように情報を伝えて、他サービス利用の為の支援としている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターからの参加があり、情報を共有している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院の医師の為に本人家族共に納得して良い関係を築いている。又、適切な医療を受けられるように他の医療機関との関係も良い。		

【千葉県】グループホーム あんじん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に詳しく、物忘れ外来や講演もして受診の際の入居者との関係は良好。日常生活の相談、治療がスムーズに受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職位の一人が看護師として従事している為に、日常の健康管理や医療連携の支援も充実している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	実際に骨折の為に入院した入居者がいて(家族もなく)スタッフが食事介助に出向き、本人とかかわることにより病院との情報交換も良く、早期退院できた。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会の場や来訪された時に話し合いの場を持ち、急な時は電話にてお知らせする等して連絡し合い、重度化、終末期のあり方について主治医、家族、職員で方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示のもと、チームでの入居者のより良く暮らすための支援に取り組んでいる。終末期に関しては家族と共に本人の心とより添えていけるようにしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人に関わるケア関係者間で情報交換を行っている。サマリーや日常生活の様子をまとめた記録を送る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の書類等については、所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送りの方法や声かけに気を配り、相互の信頼関係も大切にしている。また、直接部屋が見えないようにパーテーション等を利用し、プライバシー保護に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>筆談をしたり個別に説明して希望を伺う様にしています。なるべくわかり易く話をする様にしながら、本人の表情や行動から気持ちを受けとることもあります。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っている。希望を言いたせない入居者にはさりげない言葉かけなどをして希望を把握するように努めている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者に応じて化粧の支援を行ったり、2ヶ月に一度美容師さんに来てもらいヘアカットをしてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>希望や能力に応じて食事の準備から片付けまで共同で行っている。入居者と職員が同じテーブルを囲み明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。入居者と一緒に食材の買い物をしたり近隣住民からの農作物の差し入れ等により、季節を感じる食事の提供を行っている。外食会を企画実施し、入居者に食の楽しさを支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>朝のおめざにお気に入りのお菓子や飲み物を持って行ったり誕生日には個人のリクエストによる献立にしている。その方の好きな物なるべくその方に合わせて出すようにしている。</p>	

【千葉県】グループホーム あんじん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>尿意はあり、自分でトイレに行くがパッドは濡れていたりということはあるが、なるべくオムツはしない方向で支援している。検討の必要ありの時は排せつパターンのデータをとったりしてトイレ誘導の手引きとしている。また、水分摂取、食事野菜を多くななどの工夫をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>浴室は広く暖房も完備されている。入浴は毎日実施されており、本人の希望に応じて回数や時間等柔軟に対応している。入浴拒否については、声かけの工夫や時間の変更等で無理強いせず本人のタイミングに合わせた支援を行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中のアクティビティとして午前中軽い運動、または散歩に出かけたりして生活リズムを調整し安眠できるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の能力や希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。デイサービスのレクリエーションにも参加し、楽しみながら外部との交流を図っている。また、施設ではペット(ねこ)も飼われており、動物とのふれあいが癒しに繋がっている。季節に合わせた行事や誕生会を企画、実施し入居者の楽しみを支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出の時はバッグの中に財布を持ち、購入する際に自分で支払いをする様子があれば確認品がら見守る。事前に家族より預り、本人にお知らせして払ってもらうこともある。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望に応じて、散歩や買い物を日々実施している。また、定期的+にお花見、感激等の外出や食事会も行われている。年1回グループホームじゅらくと合同で2泊3日の旅行も実施されており、入居者と職員が楽しみを共有し、絆を深める大切な機会となっている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節季節の花を見に行ったり、白鳥が飛来する時期には出かけてみたりと、その時でしか味わえないことはなるべく外出支援して行う様にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に職員が電話をコールしてあげ、会話をしたり年賀状やクリスマスカードなど、又、礼状などを書けるようにはがきなどを用意している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にてゆっくりと話せるよう配慮しお茶をお出ししたりリビングを利用してもらったりしている。また、入居者の皆さんとお茶や食事をともにすることもあります。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会などに参加し、ミーティングの際に報告をしながらの勉強会を行いケアにつなげています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは開放しておくようにしています。(雨風の強い時のみ閉めている)夜間は外からの不審者の侵入を防ぐために施錠している。居室は鍵をかけずに生活している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在は確認を怠らないようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じて取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒のおそれのある方は常に見守り、誤薬に関しても管理、与薬は確認をしている。運営推進会議の場を利用し、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作りは職員全員が熟知するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等で協力が得られるようお願いする。消防署の協力により消火・避難訓練。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会の時、リスクについて話し合いの場を持ち意見を出してもらい、理解を深めたり家族が来訪の際は生活の様子を話し、意見を伺ったりしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気づいた職員が看護師に連絡し、主治医より指示を仰いだり、情報、対応をつなげていきます。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に個々に確認しながら行い、薬に関する説明書に目を通す。職員が共有できるよう記載し、確認しながら行っています。又、副作用については注意しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫、水分量運動等に心がけている。排便の記録をとりながら医師、看護師の指導のもと排便コントロールしている方もいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、就寝時に口腔ケアを行う。入れ歯の方は洗浄剤を使用し、うがいをして頂く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方の状態、好みなどを考慮し、一人一人に応じた支援をしている。水分については一日の水分量を見ながら足りない分は好みの飲み物で摂取していただく。糖尿病の方にも気を配る。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者、スタッフ共に手洗い、うがい励行に努めている。マニュアルはスタッフが熟知し又、目に付くところに貼ってある。感染症についての解説は主治医に行ってもらった指示がもらえる体制になっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は清潔を保ち、調理器具も清潔を心がけている。食材の保管使用も安全にできるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花の鉢を置いたりしている。又、天気のを許す限り玄関のドアは開放し出入りしやすい雰囲気になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、写真を貼ったり、廊下には入居者の作品や絵などを飾り、生活感、季節感を取り入れている。玄関にはお正月飾り、お雛様、クリスマスリースなどを飾る。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好む場所を理解して利用者同士の人間関係も考慮しながら、心地良く過ごしていただけるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、中には仏壇を持ち込んだ人もいる。季節の花や昔の写真などを貼る。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の温度調節は常に配慮している。外気温も考え合わせ温度設定している。換気は清掃時や1日2回5分ほど行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で自走している方も一人で排泄できるよう居室にトイレ洗面台が設置してあります。個々に合ったベッドを使用し、移乗や立位座位に危険のないようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の個々にわかる力をスタッフが共有理解し、日々の生活リズムに合わせてできたことに自信が持てるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出ると庭があるので野菜を植えたり、種をまいたりする。天気の良い日はベランダでお茶をしたり、お花を眺めたり、日光浴をする。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

愛 - 愛されていない命はひとつもない。 尊重 - 尊ばれない命はひとつもない。

この運営理念をもとにスタッフ一同がチームと共にケアにあたっています。

散歩、買い物、喫茶店でのティータイム等の外出支援し、地域のイベント等にも参加しています。医療との連携が充実していて家族の安心してくれています。